

令和2年9月20日

プレゼントデザイン株式会社
川端順也様

この度は、業務多忙の中、10日間僕をインターンシップ生として受け入れていただき、本当にありがとうございました。

プレゼントデザイン様の元で、インターンシップ活動をさせていただくことができ本当に良かったと思っています。

まず、先程申し上げましたが、非常にお忙しい中、インターンシップ生の僕に、たくさんの事を教え、経験させていただいたことに非常に感謝しています。せっかくのインターンシップだからということで、日頃の業務の補助的な活動ではなく、実際の依頼主の方のご協力もいただきながら、パッシブデザインを踏まえた住宅設計の体験をさせていただいたり、野池さんの勉強会に参加させていただいたり、本当に貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

10日間のインターンシップを通して、学校では学ぶことのできない非常に多くのことを学ぶことができました。

住宅設計の体験では、パッシブデザインを意識した住宅ということで、敷地調査ではSun Seekerを用いて太陽の動きを読み取るなどして取り組みましたが、入念に敷地調査をすることが非常に大切だということ学びました。また、敷地模型を1/200の縮尺で作成し、それを片手にプランを考えるということをしてきましたが、非常にプランが練りやすくなり、模型をしっかり作るということの重要性を学びました。普段の学校の設計課題においては、「設計している建物が実際に建つわけではない」という認識で取り組んでいた事もあり、やや非現実的な空間を設計していました。しかし、今回のように、お客様の顔・人柄などを知っている状態で、さらに実際の敷地が与えられている中で、設計するのは普段とは異なる貴重な体験となりました。そのため、奇抜さではなく、いかにpleasant(快適)な空間を設計できるか、ということ意識することを学びました。

また、「建物が人を殺すようなことがあってはならない」という言葉が非常に印象に残りました。建物の「省エネ」を考えるよりも前に、まずは構造検討が必須であり、安全な建物であることが当たり前でなければならないということを改めて感じ、学びました。さらに、「ホームズ君」を用いた構造、温熱検討はとても貴重な体験となりました。特に、温熱シミュレーションにおいては、「省エネ」な建物を実現するために、非常にたくさんのことを検討しなければならないのだなと感じました。

そして、普段はあまり作らない模型を作らせていただきました。やはり敷地模型と同様、模型はしっかり作るべきだと思いました。また、屋根の形状が建物のデザインと密接に繋がっているということは、あまり意識していなかったため、これからは屋根の収まりもしっかり検討していこうと思いました。

インターンシップのメインは、住宅設計活動でしたが、この他にも住宅施工現場見学、野池さんの勉強会、「海風の家」見学など非常にたくさんの経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

インターンシップとは少し関係ないかも知れませんが、インターンシップ5日目の金曜日の夜に、食事に連れて行っていただきたくさんの話を聞かせていただいたことも非常に良かったと思っています。経営者の方一人一人が語る「建築」についてじっくり聞かせていただきました。自分もこのようにいつか、

「自分の考える建築」を語るができるように勉強していきたいと思います。

「パッシブデザインを学びたい」という思いから、川端さんの元でインターンシップ活動をさせていただきました。まだまだ建築の知識や経験が不足していて、住宅設計の際も最初は上手くプランを考えることはできず、自分の実力不足を痛感しました。しかし、川端さんの「パッシブデザインを学びたいというのが嬉しい」というお言葉や、野池さんの「君のような 18 歳の学生がいて頼もしい」というお言葉を頂いた時はとても嬉しくなり、少し自分のそういった部分に自信を持つことができました。川端さんや野池さんに会ってたくさんの事を学ぶことができ本当に良かったです。このように出会いを大切にこれからも頑張っていきたいと思います。

将来、「設計」に進むか「研究」に進むか、まだ悩んでいるところではありますが、建築・都市のパッシブデザインに関する仕事をしたいと考えています。このインターンシップで学んだことをしっかり整理し、生かして頑張っていきたいと思います。

10 日間本当にありがとうございました。

またいつか、僕がお酒を飲めるようになってからお会いしたいと思います。これからも何か質問させていただきたいこと等があれば連絡させていただきます。Pleasant Design 様のますますのご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

10 日間本当にありがとうございました。